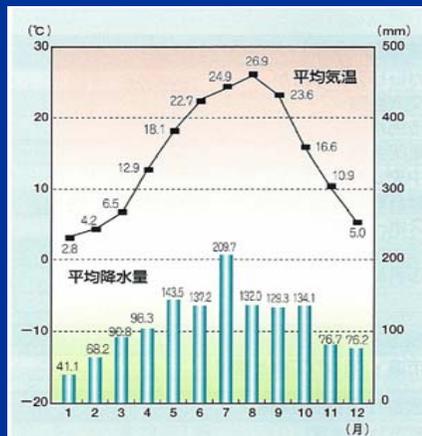


4. まちづくりの現状

亀岡市の概要

■ 位置・地勢・気候

- 京都市の西方約20kmに位置し、JR山陰本線、国道9号、京都縦貫自動車道等によって結ばれる。沿線を中心に市街地を形成。
- 南丹地域の玄関口にある都市圏の中心都市。
- 周囲を山々に囲まれた盆地状の地形で、桂川が盆地中心部を貫流し、周辺に農地が広がる。
- 年間の寒暖差が大きい典型的な内陸性気候。



亀岡市のしおりより



亀岡市緑の基本計画より

■ 歴史・沿革

- 奈良～平安時代には丹波国の中心地であったため、市内各所に歴史遺産が多く残る。
- 戦国時代末期には、明智光秀が亀山城を築城して城下町の基盤をつくり、今日の亀岡市の礎を築いた。
- 明治2年、伊勢の亀山との混同を避けるため、「亀岡」と地名を改称。
- 明治22年の市制・町制施行当時は南桑田郡を亀岡町と17か村で構成。
- 昭和34年9月に現在の市域が形成。

■ 人口動態

- 近年まで社会増を背景とした人口増加が続いた。
- 平成12年～平成17年では総人口が若干の減少に転じた。

年次	世帯数	男	女	総数(人)
昭和30年	8,520	20,882	21,656	42,537
35年	8,757	20,505	21,850	42,355
40年	9,493	20,650	22,485	43,335
45年	11,118	22,803	24,348	47,151
50年	15,089	28,691	29,493	58,184
55年	18,998	34,450	34,980	69,410
60年	21,017	37,672	38,535	76,207
平成2年	24,277	42,326	42,960	85,283
7年	28,198	45,732	46,666	92,398
12年	30,625	46,411	48,144	94,555
17年	32,455	45,884	48,112	93,996

昭和30年の人口および世帯数は、編入・合併・分市の前の数値(あなぶん)した数である。

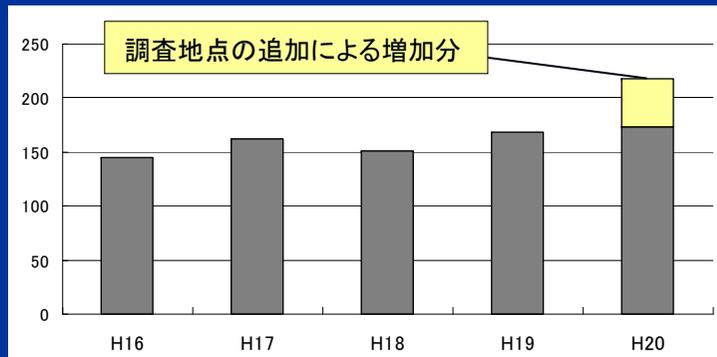
亀岡市のしおりより

亀岡市の観光レクリエーション

■ 観光レクリエーション資源

区分	名称等
自然系	保津川下り、ラフティング
	トロッコ列車
	ひまわり園、コスモス園
	京都府立保津峡自然公園
歴史系	亀山城址、城下町
	鍬山神社、谷性寺、明智光秀
	亀岡祭、亀岡光秀まつり
その他	湯の花温泉
	亀岡運動公園
	ゴルフ場、ハイキングコース

■ 観光入込の推移



* H20から調査対象観光地点を追加した

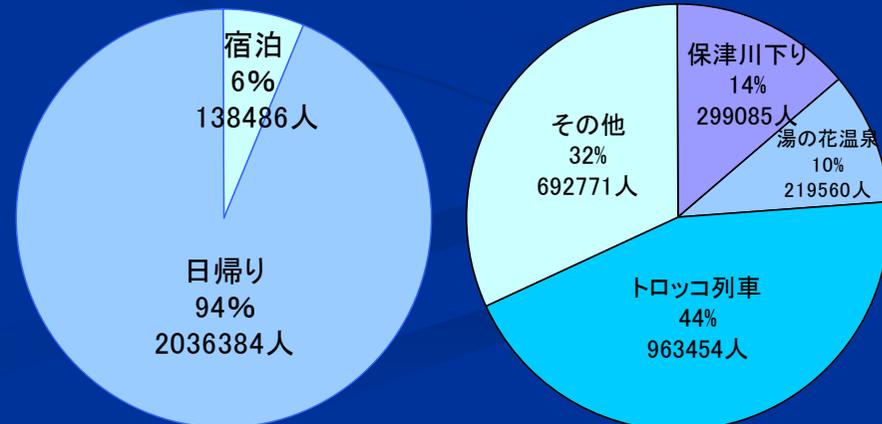
■ 観光入込

○近年の観光入込客の総数は年間220万人程度で推移。

○トロッコ列車が約4割強、保津川下りが約1割強を占め、合計で保津峡観光客が約6割を占める。

○日帰り、宿泊の比率は宿泊が6%と、ほとんどが日帰りである。

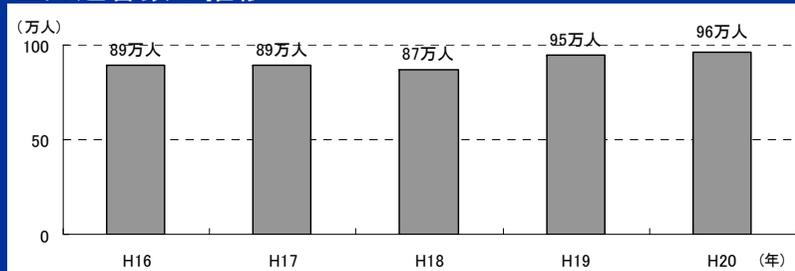
■ H20年度の観光入込【総数 2,174,870 人】



●嵯峨野トロッコ列車

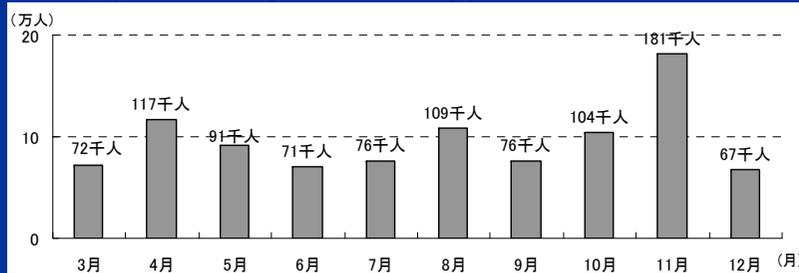
- 平成3年の開業以来、増加し、平成20年には96万人に達し開業年度の1.4倍となっている。
- 月別入込客数は、嵐山の観光客がピークを迎える紅葉期の11月が最も多く、年間の約2割を占める。
- 次いで春、夏、秋の観光シーズンが多い。

■入込客数の推移



亀岡市統計書より

■入込客数の月別変化(H20年度)

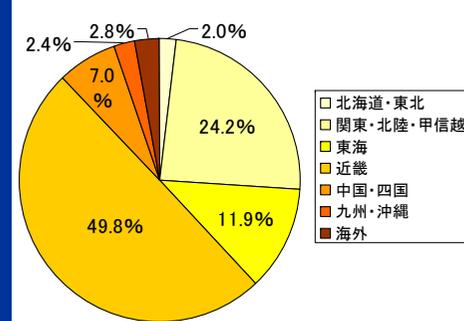


亀岡市統計書より

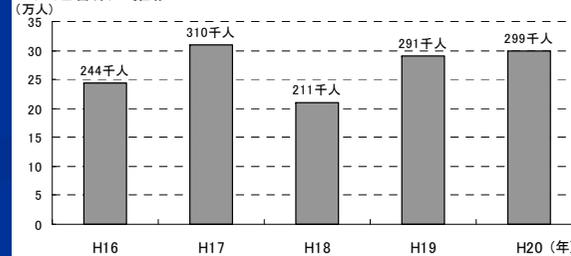
●保津川下り

- 平成3年トロッコ列車の開通で入込客が急増し、一時は年間40万人程度を示す。
- 近年では、概ね30万人程度の入込。
- 天候、保津川の流況等の影響を受け、年によって入込客数の増減が大きい。
- 近隣の近畿圏から約50%を占め、次いで関東、東海方面からの来訪者が多い。
- 全体としては、嵐山観光との関連も強く、広く全国から集客。

■入込客の内訳(H19年度)



■入込客数の推移



上位計画

■ 第3次亀岡市総合計画(2001年)

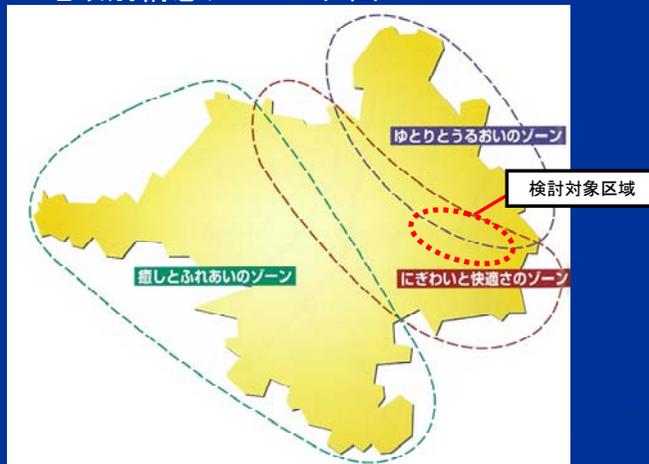
● 将来都市像

『聖なる水と緑の奏でる知恵の郷』

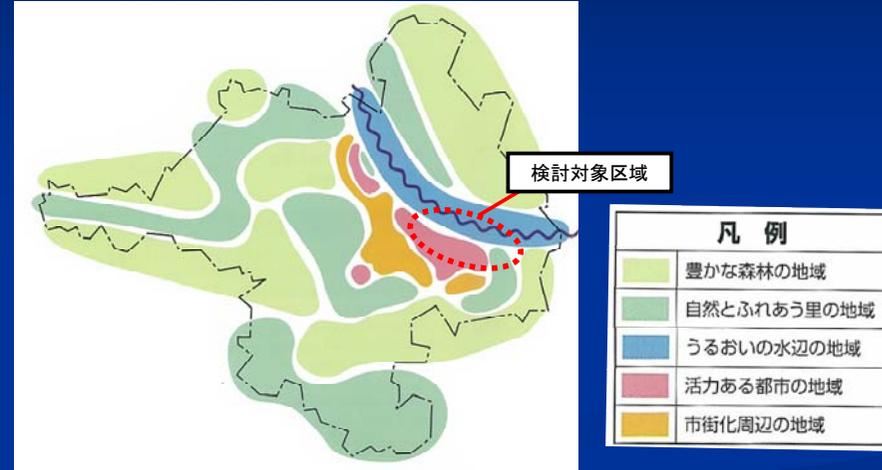
● まちづくりの基本的な理念

- 市民の参画と協働
- まちの資源と個性の活用
- 情報の行き交うまち

■ 地域別構想ゾーニング図



■ 土地利用構想図



○ ゆとりとうるおいのゾーン

— 歴史的資源を活かした地域づくり —

<基本方向>

- ウォーターフロントへの集客・交流機能の集積を図ります。
- ウォーターフロントと連携した誘客機能の整備を進めます。
- 回遊性を高める交通機能の整備(歩く軸など)を進めます。
- 農地の効果的な運営と農業を活かした交流の機会づくりに努めます。

○ にぎわいと快適さのゾーン

— 都市的な集積を活かした地域づくり —

<基本方向>

- 駅周辺を中心とした商業・サービス・交通結節機能の集積を図ります。
- 文化・情報など、広域的な高次都市機能の整備を進めます。
- 城下町のまちなみや歴史を紹介するスポットなど、まちなか観光(タウンウォッチング)を促進する景観・基盤の整備を進めます。
- まちなかの快適性・回遊性を高める緑・道づくりを進めます。

■ 亀岡市都市計画マスタープラン(2006年)

● 目標年次

平成27年(2015年)

● 人口フレーム

○人口フレーム(目標年次)

125,000人

○将来人口目標

160,000人

● 都市整備目標

○水と緑が彩る快適で
魅力的な暮らしの場。

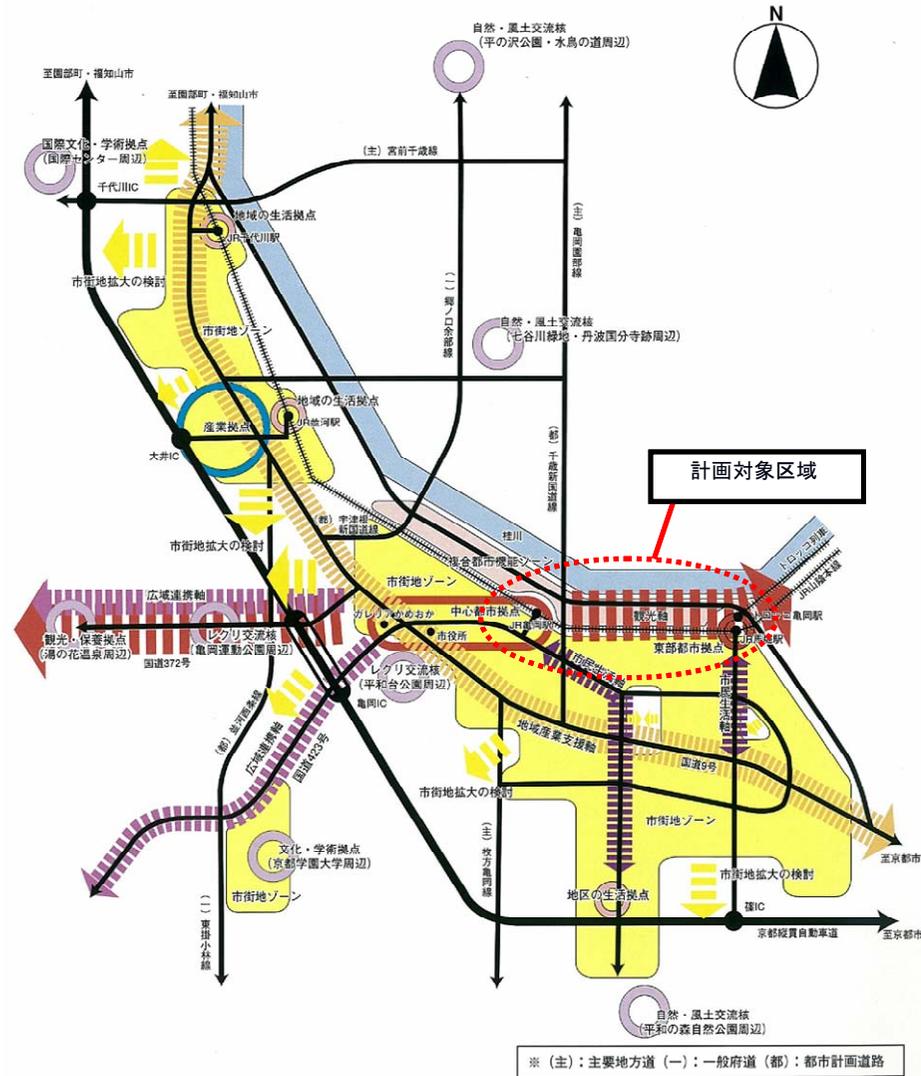
○いきいきとした
ゆとりのある産業の場。

○広域交流とにぎわいを育む
都市活動の場。

○環境と調和した
安心・安全な都市活動の場。

○市民とのパートナーシップに
基づく都市整備。

〈市街地とその周辺部〉



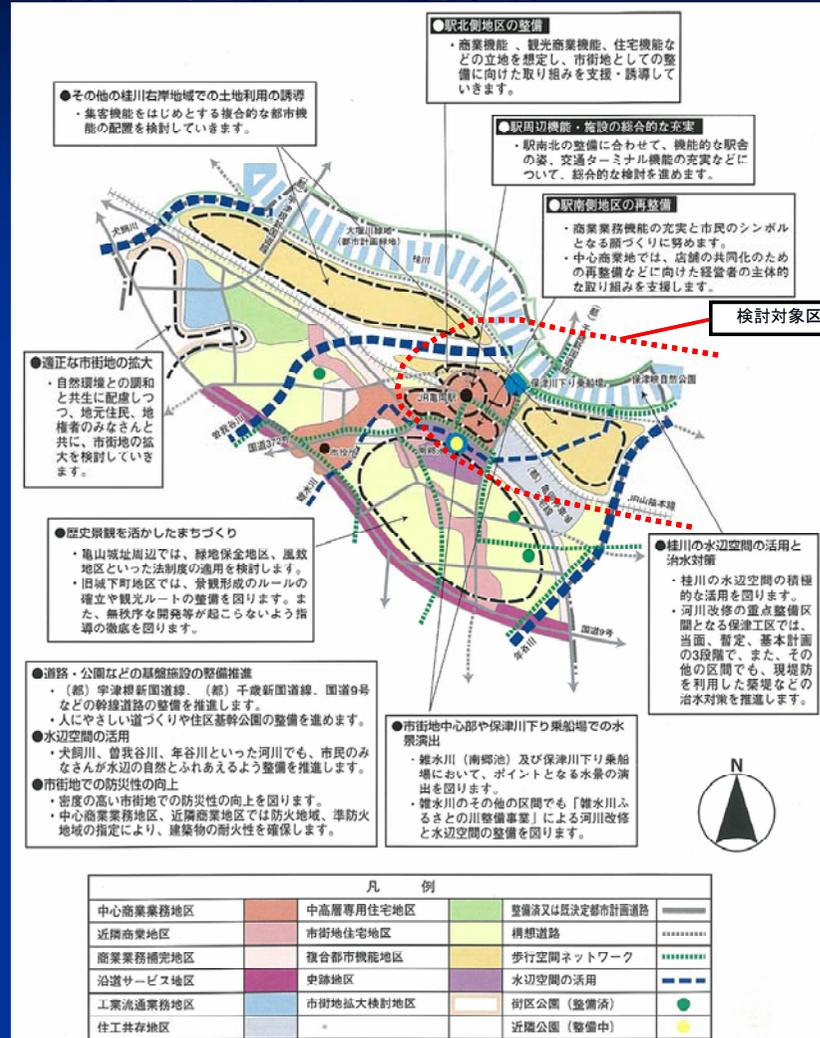
■ 地域別のまちづくりテーマ

地域区分	まちづくりテーマ	
にぎわいと快適さのゾーン	亀岡地区	風格あるにぎわいと華やぎのあるまち
	篠地区	交流を育むまち
	大井・千代川地区	いきいき産業と共存するまち
ゆとりとうるおいのゾーン	川東地区	風土と共に生き、活力を育むまち
癒しとふれあいのゾーン	中部地区	田園に包まれた暮らしと湯の花観光のまち
	南部地区	里の暮らしと自然を楽しむまち
	西部地区	自然と共生する暮らしと交流のまち

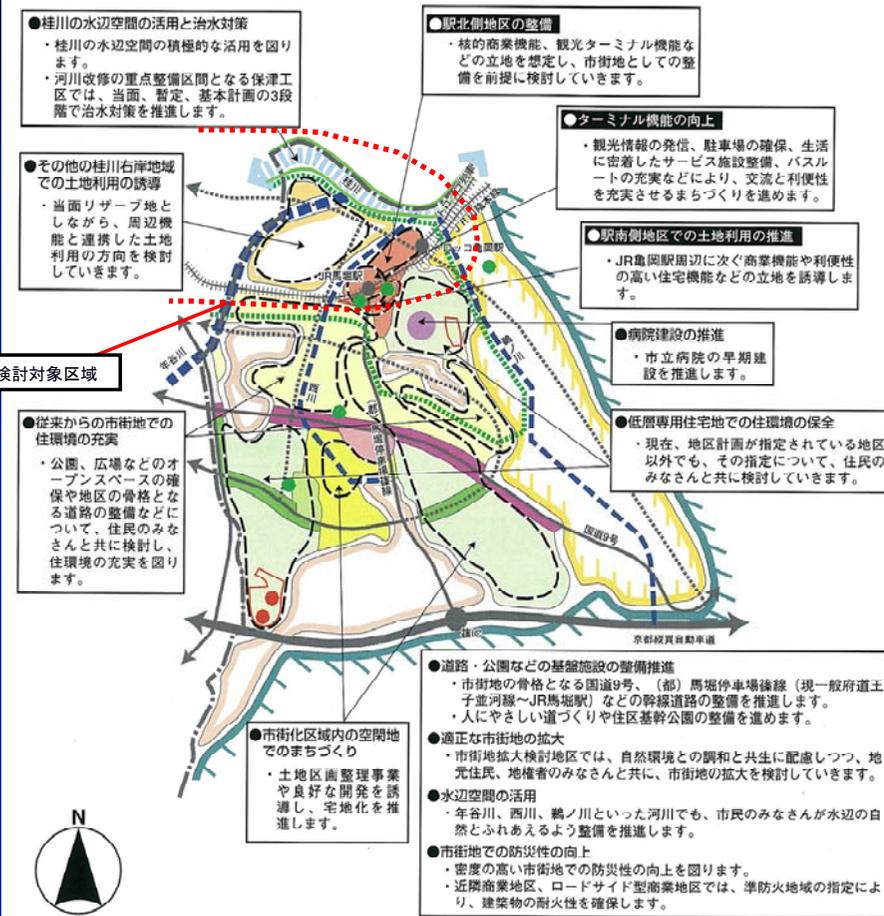
■ 地域区分図



■ 亀岡地区北部(国道9号以北)の整備方針図

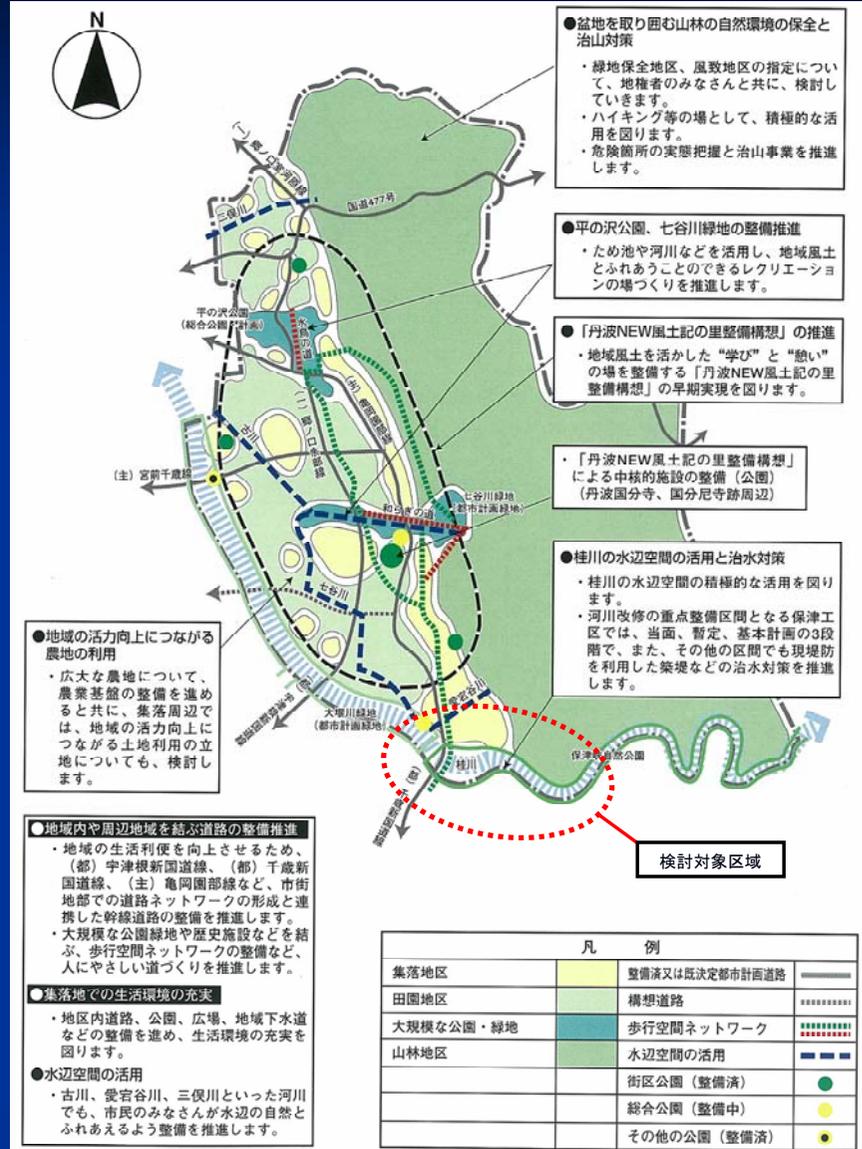


■篠地区の整備方針図



凡 例			
中心商業業務地区	専用住宅地区	地区計画区域(既決定)	
ロードサイド型商業地区	市街地住宅地区	整備済又は既決定都市計画道路	———
商業業務補充地区	複合都市機能地区	構想道路
沿道サービス地区	リザーブ地区	歩行空間ネットワーク
低層専用住宅地区	市街地拡大検討地区	水辺空間の活用	— — —
中高層専用住宅地区	田園集落地区	街区公園(整備済)	●
沿道型低層専用住宅地区	山林地区	街区公園(計画)	●

■川東地域の整備方針図

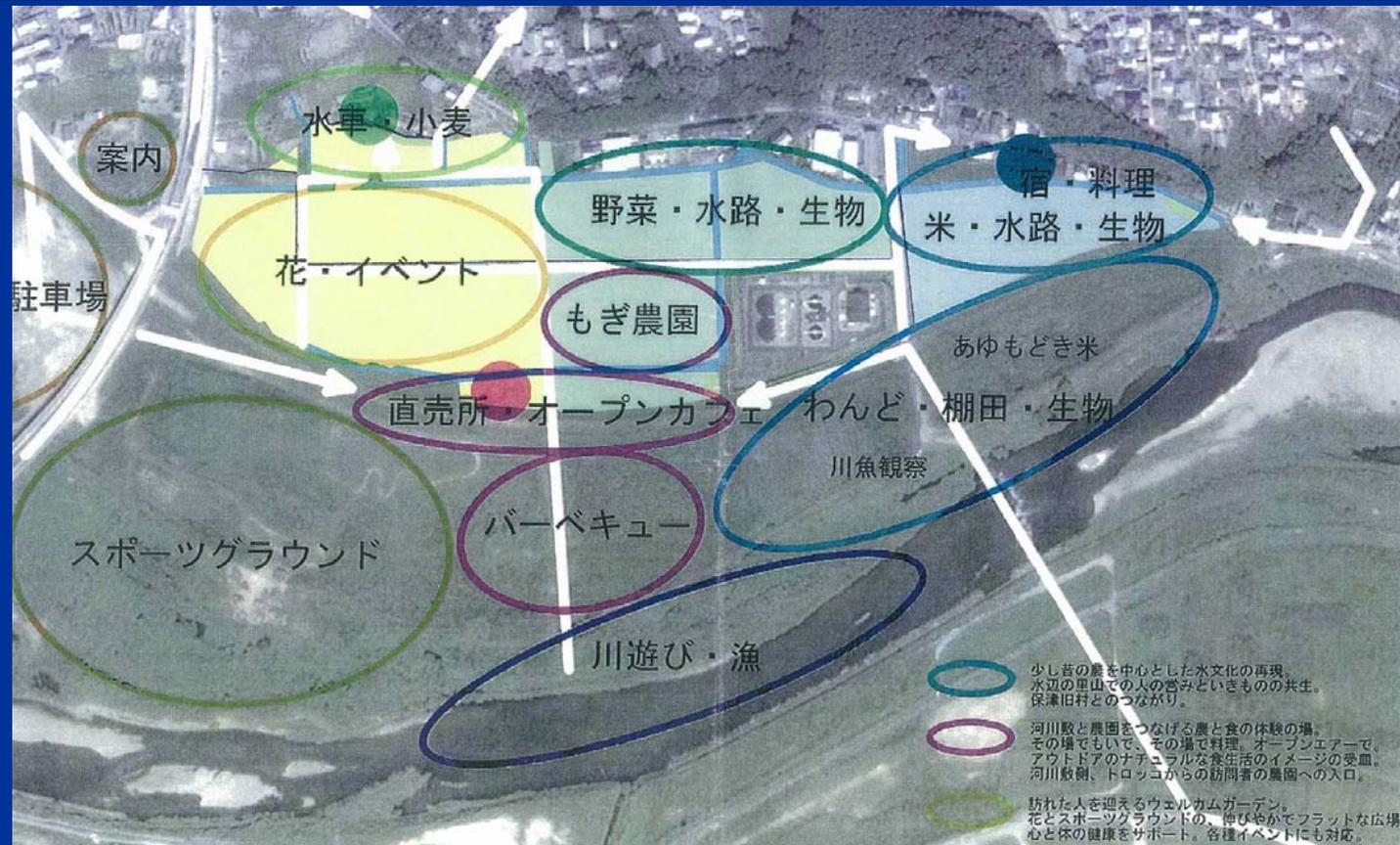


凡 例		
集落地区	整備済又は既決定都市計画道路	———
田園地区	構想道路
大規模な公園・緑地	歩行空間ネットワーク
山林地区	水辺空間の活用	— — —
	街区公園(整備済)	●
	総合公園(整備中)	●
	その他の公園(整備済)	●

関連計画

■ 水端農園(すいたん)プラン (保津町まちづくりビジョン推進会議:2009.6)

- 保津町づくり委員会が「保津の町づくり」のビジョンとして策定。
- 保津川左岸の八ノ坪地区を舞台とした新しいまちづくりのアイデアプラン集。
- 策定に際しては、地元、地権者等と協働で検討。



■ 水端農園プラン ゾーニング

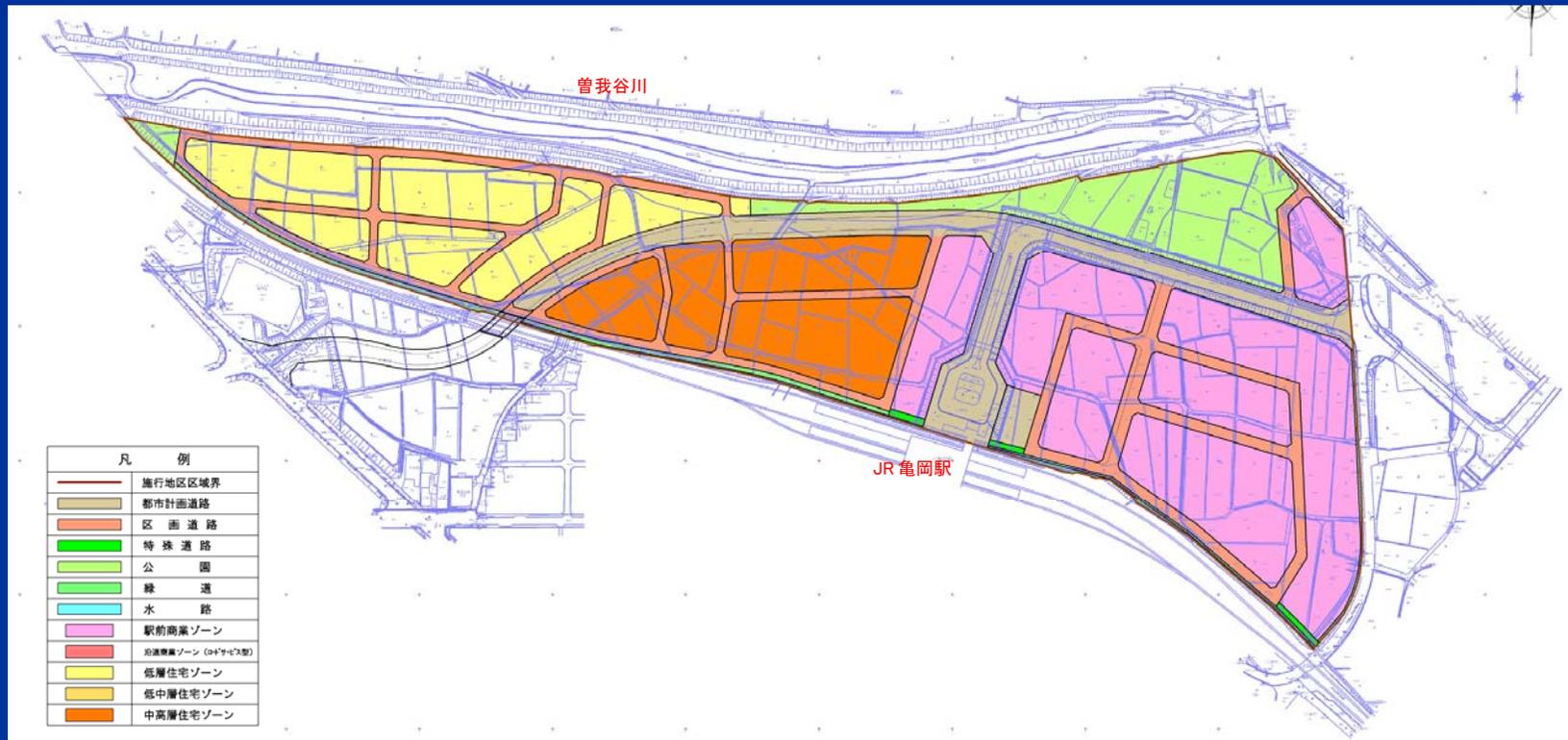
■ 亀岡駅北地区 区画整理事業

○JR亀岡駅の北側を対象とした新たなまちづくりの拠点となる市街地整備の計画。

○まちづくりのテーマ：『文化の香る 水と緑と華やぎの”まち”』

○まちづくりの方針

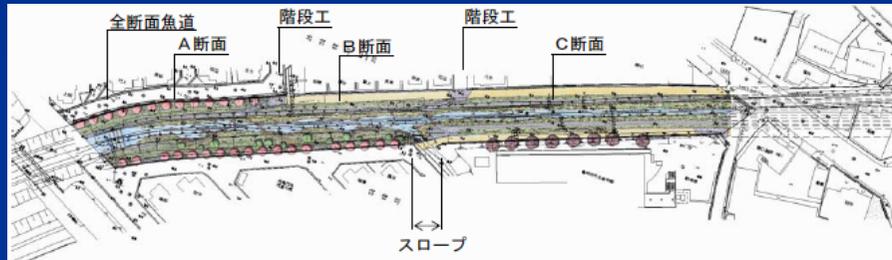
- 水と緑・・・暮らしの中に常に水と緑によるやすらぎを感じるまち
- 華やぎ・・・亀岡の顔としての華やぎのあるまち



■ 雑水川河川整備研究会 報告(2008)

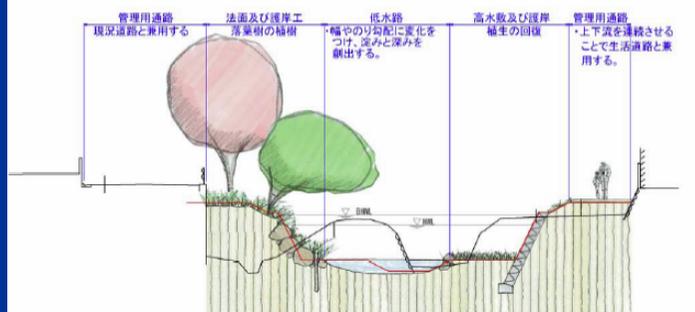
●南郷池より下流区間の整備の考え方

○低水路を設けた生物に配慮した計画



向島団地横

B断面

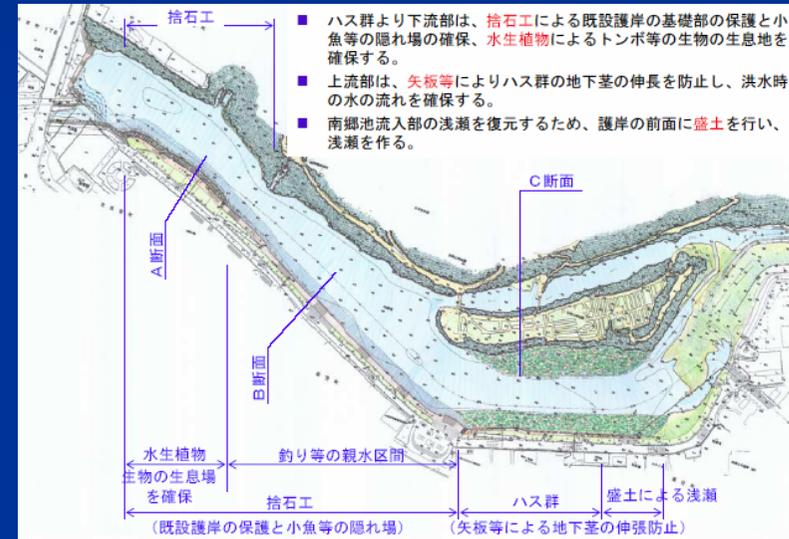


●南郷池区間の河川整備の考え方

○生物の生息環境の保全・復元

○池内の水循環による水質浄化

○堀としての歴史的景観の保全



B断面

